

軒昂会

軒昂会会報 第36号 (最終号)
 発行者 日原 雄
 編集者 田村千秋
 発行日 平成25年4月
 URL : http://atk.gnk.cc/kkk/
 会報 : http://atk.gnk.cc/kkk/pdf

会報は年2回予定しています。
 皆様の原稿お待ちしております。
 頂いた方にはお礼申し上げます。
 原稿の送り先
 Eメール : ct@ctamura.com

軒昂会閉会について

軒昂会発足今年で二十六年目になります。長きに渡り皆様と共に会を通して友好の絆を保ってこられたのも一重に会員皆様のお蔭と感謝しています。

ここに来て会員の平均年齢も七十歳を超え、会員数(平成十五年)は八十五名だったのが現在三十四名にまで減少しました。そんなことで昨年度の総会に議題としてあがった今後の軒昂会のあり方について審議した結果、皆様の総意で次のように決まりました。

「幹事に一任」

さる三月十五日フォーラムに幹事が集まり審議しました結果次の様に決定しました。尚この内容は日原会長、西牧副会長に報告してあります。

一、軒昂会は平成二十四年度総会をもって閉会とする。
 一、二十四年度総会費用に軒昂会予算を全て充当する(約三十万円)。公平を期する為年会費納入実績を個人別に計算して総会会費(基本五千元)を徴収

総会終了後総会等にかかった経費を清算、残った金額を総会出席者全員に均等配分する。

尚、総会欠席者の方には分配金はお支給いたしませんのでご了承下さい。

幹事一同

最近の総会参加者の推移

平成16年	22名
平成17年	16名 (日帰り)
平成18年	19名
平成19年	10名
平成20年	12名
平成21年	12名
平成22年	東日本大震災のため中止
平成23年	20名
平成24年	最後の総会です
多数のご出席お待ちしております	

平成二十四年度ファイナル総会のお知らせ

左記の通りご案内申し上げます。
 多くの皆様参加、幹事一同お待ち申しています。
 日時 六月四日(火)〜五日(水)
 チェックイン十五時
 場所 箱根湯元 箱根一の湯(前回と同じホテルです)
 宴会費 参加会費五千元(残額会負担)

当日、年会費清算の上(基本五千元)集金させていただきます。
 出欠用返信はがき同封してありますので五月二十日までに返送ください。

箱根一の湯のパンフレット同封し
 ます。
 露天風呂、大浴場につきり一年ぶりの再会を祝いましょう。カラオケも用意しました。また有志の皆様から近況や活動のスピーチ頂ければと思っています。

軒昂会は閉会しますが皆様方の健康とご隆栄を心から祈っています。
 尚、軒昂会のホームページは引き続き当分掲載いたしますので閉会後も近況等掲示板にお寄せ下さい。田村



塔ノ沢一の湯本館
 TANI NO ICHI NO YUM HONKAN

一つの無常

軒昂会幹事長 川野進
 皆様、その若き日に軒昂会が結成され二十六年が経ちました。その間、会員の何名かは「楽しい思い出を残したまま他界されました。残った我々も、それなりに人生をエンジョイしておられる様ですが「高齢化」という物理的現象はいかんともしかたなく、幹事で検討の結果今総会を以って「軒昂会閉会」と云う一つの無常を迎えることになりました。

今まで協力くださいました会員の皆様及び事務的諸事を担当して下さいました会員の諸方々に御礼を述べつつ筆を置きます。

懐かしい写真

平成十三年一月二十一日撮影



軒昂会二十六年間の足跡と主な行事及び出来事

軒昂会発足の経緯

昭和六十三年七月 発足
 日原名譽会長 西牧会長が就かれました
 西牧会長の挨拶

軒昂会会員数は皆様の絶大なご協力により、五十四名の会員となりました。この会は永遠のものに、又更に拡大発展するようご支援くださることをお願いいたします。

第一回軒昂会総会は六十三年七月十七日生産性本部研修会館(伊豆)に於いて発足をいたしました。
 翌日、釣り、ゴルフ等を楽しみました。
 軒昂会の行事 ゴルフ(本間)・釣り(西牧)・将棋(佐藤正) 国内外旅行(田上) 括弧内は担当

昭和六十三年度のゴルフ大会には郡山会員優賞
 昭和六十四年度藤沢会員優勝
 第四回総会の決議事項(興味ある内容ですので紹介します)
 年会費五千元 規約の変更 軒昂会入会資格課長以上を撤廃

平成六年 桜田会員による投稿シリーズ
 「歴史的街道資産の再発見」始まる
 平成十年 軒昂会会員数八十九名 大村会員逝去
 小田原シテイモール建物完成

平成十一年 新藤特別顧問逝去 軒昂会ホームページ開設
 第二十六回ゴルフ大会本間会員優勝
 小日向会員投稿の「シルクロード」連載

平成十二年十二年度の総会は熱海エクシブで三十四名の会員が出席、翌日函南ゴルフ場でコンペ
 平成十六年の会報より 本間会員投稿の「アマダ五十年勤続に思う」興味ある内容でした(会報は〇にまとめて編集したのをお渡します)です(パソコンでご覧ください)

平成十七年軒昂会藤沢副会長逝去
 平成十八年総会に多くの会員が出席していただけるよう検討した結果 日帰り 近場 参加費用安くなる条件で設定「東名厚木健康センター」会費五千元で実施十六名の参加でした 期待ほどの効果なしと判断次回より一泊

平成十九年総会は「箱根湯元ホテル」総会出席者十七名
 天田創業三者(天田勇 天田力男 江守龍治の三方を偲ぶ会)を天田創業日(九月十日)に行う旨の報告が本間会員からありました 現名称(アマダ〇〇友の会)今年で六回目 阿部清会員逝去

平成二十年昨年より総会の定宿は「箱根湯元ホテル」になりました 総会参加者十二名会員数四十八名
 平成二十一年宮本会員より長編の投稿頂き連載しました
 「題して六十四歳の派遣社員」

平成二十二年桜田会員が心筋梗塞により急死されました
 桜田会員の豊かな才能の紀行文は会報十号から三十一号まで掲載しました 小日向会員逝去
 三月十一日東日本大震災により総会中止となりました
 平成二十三年総会で軒昂会の今後について議論しました

愛機帰還せず (会報前々号の続き)

菅原忠男

ある朝、彼女が「あの人も感じのよい人よ、ぜひお友達になるといい」と犬を連れて散歩している中年の女性を指した。

毎朝グラウンドで見かける人だが、勿論挨拶を交わしたこともない。幾日か経った朝、落ちた紙飛行機に駆け寄ろうとした犬を制止して「おじやましてごめんなさい」と声をかけてくれたのをきつかけに挨拶を交わすようになった。

話し方や身ごなしに気品が感じられ、笑顔の素敵なご婦人であった。

晩秋の頃から老婦人がまったくグラウンドに姿を見せなくなった。その後も翌年の夏、翌々年の夏もお会いすることがなかった。グラウンドに立つとお元気でいるだろうか、いつもこの方のことを思い出す。

一方、犬を連れてご婦人とはお会いすることが多く、会話も増えてきたがあの老婦人とのように親しく語りあうことはない。

工作の楽しさ

昨年八月の競技会は倶楽部が設計したバルサ胴機統一と決まり、一ヶ月前から製作に集中した。師匠のA氏に来宅願ひ五時間にわたって作り方を教わった。長時間かかったのは接着剤やニスの乾きを待つ時間が度々あったからである。バルサ材かヒノキ材を胴体加工し、ケント紙の主翼、尾翼をつけ、彩色して最後にニスでコーティングして仕上げ。ペン小鋸、彫刻刀、棒ヤスリ、先曲がりペンチなどを使って木片を加工することが、手間はかかるがなんとも楽しかった。紙だけのものと違って、飛行機らしい姿になるので一段と魅力が増す。

競技会までに十機ほど作ったが、二十秒以上飛んだのはそのうち三機だけだった。その三機で競技会に臨み、うち一機が二十五秒飛び、まずまずの成績を収めた。

競技会が終わってからもヒノキ胴機をさらに十機ほど作ったが、どれもあまり飛ばず、失くすと悔しいし、なにより

も手間がかかるのでこのところこちらの方はご無沙汰している。

名刺

去年の三月に完全リタイヤし、名刺を持たなくなつて久しい。たまに名刺を貰う機会があるが、自分は持っていない旨告げるときに少々寂しい思いをしたものだが、それにも慣れた。今回、紙飛行機倶楽部で会員に名刺を作つてくれた。

毎年九月二十日の「空の日」をはさんで一週間に倶楽部作品展を開催しており、隔月に一回芹が谷公園でオープンに行なう「楽しく飛ばそう会や小学校、地域子供会などに乞われて指導するボランティア活動等に際して、会員の名刺は必要だとの判断があったからである。

いざ、出来上がったものは小さなイラスト入りで可愛らしかった。

通常の名刺として使うわけにはいかず、紙飛行機に関係ある相手だけに使う限定版であるが、それでもはるか昔、初めて社会に出て会社の名刺を作つてもらった時のような嬉しさを感じた。

瀬谷にて

ゴールデンウィークの少し前、四月下旬のよく晴れた日に、二人の師匠に誘われて横浜の瀬谷(緑地)に遠征した。米軍管理地だが日中だけ一般に開放される広大な広場で、球技などは禁じられているから、パワーカイト、グライダー、プロペラ機や鯉のぼりまで自由に空中を彩り、大勢の人々が楽しんでた。広いのでお互いに干渉する心配はなく我々も紙飛行機を思う存分飛ばすことが出来た。

カメラの三脚を改造した強力なカタパルトを使うことが出来たので、思い切り高く打ち上げ、のきなみ三十〜四十秒飛んで感激した。

五月晴れの中、爽やかな微風が頬をなで、空はどこまでも青く澄みわたり、ふと、石川啄木の詩の一節を思い出したものである。

「見よ、今日も、かの蒼空に、

飛行機の高く飛べるを」

最終会報に同梱のCDの内容

1. 軒昂会会報 PDF版 (1号から36号 内6号-9号は行方不明で見当たりません、何しろ25年ほど前の事です)
2. 総会等で撮影した集合写真やスナップ写真できるだけ集めました
3. 右の個人別写真
4. 軒昂会ホームページ (オフラインでもご覧いただけます)
5. 軒昂会会員名簿 旧版(最盛期のものです)と最新版
6. おまけ 軒昂会には関係のない「世界の写真スライドショー50編」進呈。もしクリックしても表示しない場合田村宛メール下さい。

ct@ctamura.com



懐かしい写真の続き 平成10年末に編集したものです



編集後記

とうとう軒昂会会報作成も最後になりました。何事も始まりがあり、終わりがあります、ちよつと淋しい気もしますが終わったんだという優越感みたいな気持ちです。

会員皆様に原稿等の無理なお願ひも気持ち良く引き受けていただき感謝の念でいっぱいです。中でも桜田会員の長期にわたる連載には頭が下がります。個人的にはアマダメトレックス退職後はボランティアで横浜の三溪園のガイドをされていて是非お越し下さい云われていたのですが行きそびれてる間に亡くなられ残念でなりません。

最後に、会員の皆様何時までも元気で人生を楽しもうではありませんか。

おわり

田村